

# No. 1030

## 阿国から菊五郎まで

—大歌舞伎美展—

10月10日、秋晴れの祭日、東京銀座では、大銀座祭を記念して、地元のちびっ子鼓笛隊や高校生のプラスチックバンドが街中をパレード、集まった大観衆の拍手を浴びました。松坂屋7階特別会場で開かれた東京新聞主催の大歌舞伎美展には七代目尾上菊五郎さんも出席、華やかな雰囲気の中にスタートしました。歌舞伎の発祥といわれる〈阿国かぶき〉から現代〈七代目菊五郎〉まで200点にのぼる貴重な美術資料が揃えられた館内は、まさしく歌舞伎美の世界、人々は今さらながら日本独自の歌舞伎の美に魅せられているようです。

## ミッドウェー入港

—横須賀—

10月5日午後1時、神奈川県観音崎沖に、巨大な姿をあらわしたアメリカ第七艦隊主力空母「ミッドウェー」。濃い霧の中に船上にならぶ機影が不気味にひかる。基準排水量51,000トン、乗組員4,500人、積載機約80、そして核兵器が装備されている疑いさえある。

基地横須賀の町には「母港化反対」のシュプレヒコールが響きわたった。午後2時20分、ミッドウェーは、アメリカ海軍横須賀基地6号ドックに静かに接岸。基地の外に響きわたる反対の声をよそに、出迎いの家族の無邪気な笑顔が基地の中にはあった。

昭和39年11月、佐世保に「シードラゴン」号入港、各地で入港阻止抗議集会が開かれた。そして41年5月には「スモーク」号が横須賀へ、さらに43年1月、原子力空母「エンタープライズ」が佐世保に入港するにいたり、反対運動は広範な市民を巻きこみ、大きなもりあがりを見せた。

連日基地横須賀のゲート前に、デモの列が続く。しかし、母港化反対の運動はなぜかもりあがりに欠ける。横須賀のもう一つの顔、裏通りにつらなる外人相手のバーやキャバレーは、ウエルカム・ミッドウェーの看板をかかげている。表通りをデモ行進が行く。その殆んどは、社共、総評、学生等、外からきた人間だ。

原潜の日本寄港が100回を超え、その既成事実の上に、今アメリカはさらに横須賀を母港化しようとしている。市民は、この事実に関心で良いのだろうか。